

3月の漁況と海況(内海側)

●海況

2〜3日大阪湾で実施した海洋観測結果によると湾奥部では表・中層8.6℃〜9.4℃、底層9.5℃〜9.9℃を示し平年比較で0.5〜1.0℃高目、中央部では表・中層9.3℃〜10.0℃、底層10.0℃で共に1.0℃内外の高目。南西部については表・中層9.4℃〜12.0℃、底層12.0℃で表・中層8.5℃内外、底層8.6℃〜9.0℃、その他の海域では各層にわたって9.0℃台の水温値を示し大坂湾同様前月に引続いて0.5〜1.0℃内外の高目を経過している。一方16〜17日における紀伊水道北部では東部で表・中層12.0℃台、友ヶ島寄り底層で12.5℃、南寄りでは13.5℃を示し平年並かやや高目、中部表・中層12.0℃内外で平年並、底層13.0℃台で1.0℃高目、西部は各層にわたって10.5℃〜11.0℃で1.0℃内外高目で前月まで持続した高水温分布もほぼ平年並に復しつつある。

●漁況(概況)

漁場図区々印で示すノリ養殖は掛津、播磨、淡路の各沿岸海域ではその後全般に順調な生産を続け(播磨地区ではかなり色落ちした漁場も出ていたが)生産量もほぼ平年並に回復した。一方漁船漁業は淡路南部を除きノリ養殖漁業を主体としており、従って出漁量も少なく全般的には不振であるが、本月に入り淡路東部、明石瀬戸沿岸、及び鹿ノ瀬、室津ノ瀬海域では本格的なイカナゴ漁期となり親魚(フルセ)新仔(コナ)を対象とした船曳網、込網が活況を呈している。その他各海域の漁獲対象魚としては小型底曳網漁期タイプ、アナゴ、タコ類など。1本釣ではスズキ、アイナメ、カサゴに加えて淡路南部でタコ、キス、サワラなど。延縄でアナゴ、カサゴ、アマカレイ、メバチカレイ類、メバル、カサゴ、アイナメ、キスなどとなっているが漁獲量(1日1隻当たり)は全般的にやや低調である。

●各地

- (註・以下は漁業種別漁獲量は1日1隻当たり@は1キロ当り値段円、隻数は操業隻数)
- 明石浦**
小型底曳網イカダコ30キロ@手持600、ナシ250、メイタカレイ10キロ@大1,800〜2,000、小1,000〜1,200、アイナメ30キロ@600〜1,000、アナゴ5キロ@650、タコ5キロ@900、20隻。各1本釣スズキ5〜6キロ@1,300〜1,700(目廻1.5〜2キロ)アイナメ5〜7キロ@900〜1,200、メバル4〜5キロ@900〜1,200、随時35隻。ブンチン漕イカダコ20キロ、タコ4キロ、シカレイ10〜15キロ@650、5隻。
 - 由良**
小型底曳網アナゴ10キロ@600、キス4キロ@700、タコ11キロ@600、カレイ類3キロ@1,000、その他20キロ@200、50隻。各刺網キス15キロ@800、10隻。タコ7キロ@600、カレイ類7キロ@900、その他10キロ@700、30隻。各延縄アナゴ60キロ@500、その他7キロ@400、11隻。カサゴ15キロ@800、その他7キロ@700、8隻。各1本釣サワラ3キロ@1,600、50隻。タコ6キロ@600、30隻。スズキ8キロ@800、20隻。カサゴ6キロ@700、10隻。突棒アワビ11キロ@800、サザエ6キロ@400、15隻。
 - 沼島**
小型底曳網カワツ2キロ@1,000、ハリイカ20キロ@650、キス3キロ@400、アナゴ20キロ@330、マイカ10キロ@250、小エビ15キロ@150、テナガダコ50キロ@100、小エビ150キロ@70、42隻。各1本釣キス3〜5キロ@650、30隻。ハギ30キロ@60、15隻。イシイカ5キロ@大1,300、中1,000、小500、5隻。刺網メバル、カサゴ7キロ@450、小ハギ100キロ@60、メイタカレイ1キロ@700、ハリイカ1キロ@650、24隻。突棒サザエ15キロ@350、アワビ5キロ@700〜1,100、ナマコ5キロ@270、採藻ワカメ100キロ@30、随時5隻。
 - 福良**
小型底曳網メイタカレイ10キロ@1,000、ウシノシタ5キロ@400、29隻。石桁網カレイ30キロ@400、8隻。各延縄アナゴ10キロ@350、5隻。アマカレイ10キロ@550、5隻。各1本釣タコ5〜6キロ@450、カサゴ8キロ@550各12隻。
 - 丸山**
小型底曳網メイタカレイ15キロ@1,100、アマカレイ5キロ@400、アイナメ5キロ@500、20隻。クルマエビ漕網2〜3キロ@4,500、2隻。アナゴ延縄50〜60キロ@400、20隻。刺網アマカレイ15キロ@400、アイナメ15キロ@500、3隻。
 - 岩屋**
イカナゴ船曳網3,000キロ(コナ)@45、32統。込網1,200キロ(コナ)@55、2統。パッチ網2,500キロ(フルセ)@高値100、安値35、2統。アナゴ延縄40キロ@650、18隻。
 - 青波**
イカナゴ船曳網1,500〜3,500キロ(フルセ)@24、8統。コナ500〜1,000キロ、@40、50隻。(上旬数日操業不漁のため休漁)
 - 炬ノロ**
イカナゴ船曳網1,500〜2,000(コナ)@20、4統。

●本月の特記事項

県下イカナゴ主漁場(淡路東部、明石瀬戸、鹿ノ瀬、室津ノ瀬海域)での本月の新仔(コナ)漁獲量は平年並をかなり下回っている(1、2月のイカナゴ新仔についての予報通り)が親魚(フルセ)漁はほぼ平年並が続いている。
友ヶ島水道周辺海域に例年比して約2旬程度早目にサワラの来遊をみているが漁獲量は平年並をやや下回っている。

●今後の見込み

※ 海況については基業、紀南両分枝流の向岸勢力の変動は比較的激しいが全般に強勢となり、135E線の北上が卓越するだろう。
※ カタクチイカナゴについては瀬戸内海東部では近年減少傾向を示しており、又、今年の中、大羽群の南下量も平年並以下であるので紀伊水道のカタクチは前年を下回るだろう。また春シラスは紀伊水道側では分枝流の流入勢力が強勢に維持されると、この方面の春シラスが平年並となることも考えられる。(南海海区水産研究所発表、昭和47年度上半期長期漁況予報より抜粋) (水試岩井)

ドジョウの養殖(その方法)

(兵庫県立水産試験場・主任研究員) 柴田 茂

その(一)

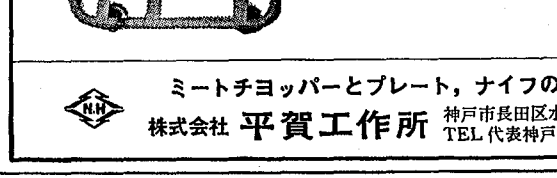
本県水産試験場 最近の成績から ドジョウは分布が広く、川や溝、水田などに生息し、むかしから食用や薬用として利用されてきた。ところが戦後、農業技術の進歩とともに化学肥料や農薬の普及、あるいは都市化にともなう河川の水質悪化などによって、この淡水魚資源はいちじるしく減少した。しかし、その独特の風味はしだいに再認識されるようになり、天然産のドジョウだけに、需要をじゅうぶんに満たすことができなくなった。したがって、値段も高くなり、時期によって引きさされることさえあるに至ったのである。このようなことから、最近になってドジョウ養殖の必要感が痛感されるようになったが、とくに昨年からその米の生産調整をきっかけとして、ドジョウ養殖の希望者が急激に増え、当里著者は数年前から、当里水産試験場吉養魚場でドジョウ養殖に関する試験を行ってきたので、これによって得られた結果をもとに、その習性や飼育方法などを、あらまし述べることにする。

近くなってドジョウ養殖の必要感が痛感されるようになったが、とくに昨年からその米の生産調整をきっかけとして、ドジョウ養殖の希望者が急激に増え、当里著者は数年前から、当里水産試験場吉養魚場でドジョウ養殖に関する試験を行ってきたので、これによって得られた結果をもとに、その習性や飼育方法などを、あらまし述べることにする。

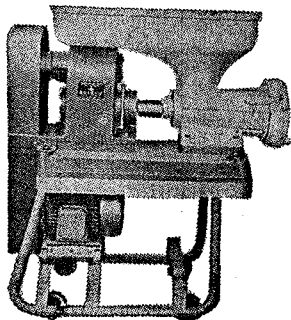
ドジョウの習性 予備知識として、ドジョウの魚は、ドジョウ科の魚に属している。呼吸は、他の魚と異なっており、鰓呼吸をも行なう。食性は、五歩以下の体長のものには小な甲殻類を食べ、五〜八センチ程度になると、これまでに

なわわれたいた稲田養魚は、いこと、現在では衰微してしまつた。その理由は、(1)除害剤、そのほかの農薬使用が普及したため、養魚に利用できる水田が少なくなったこと、(2)水田では、給餌・採餌、そのほか管理上の不便が多いこと、(3)大量生産に適していないこと、(4)用水が豊富で一週水でも注水できること、(5)最近では、本格的な養魚池や、水田を改造した養魚池が普及したため、養魚に利用できる水田が少なくなったこと、(6)普及しつつあるため、ここでは、この方法について説明する。

地を選ばず、風通しの悪い池は、水中の酸素が欠乏しやすいため、(6) 農薬、工場排水など汚水の流入しないところ、(7) 養魚池 側壁—ドジョウは池から逃げやすい。それで、池の外壁は、コンクリートか重コンクリートブロックで、池の大きさは、10〜20坪程度が適当である。水深は、通常30〜40センチである。注水口—注水は池の水よりも高いところから落下させるようにする。用水路と池との落差がないところでは、注水口に金網を張って魚の逃去を防ぐか、上方から注水する。排水口—排水口は、できれば軽く比重にしてほしい。排水口付近はコンクリート構造とし、金網プレートと、止水用板(せき板)とを装着する。(つづく)



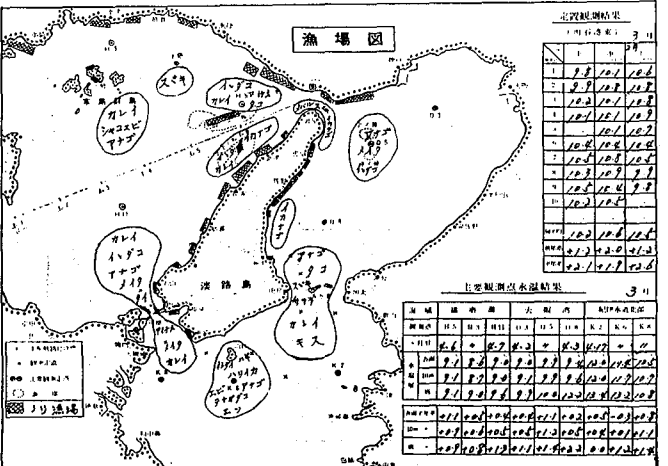
養魚の調餌と造粒は コウベヒラガのミートチッパーで



養魚用ミートチッパー No.32 から No.72 まで各種製作しています。又最近の人工餌料需要の増加にともなう生魚と人工餌料をよく練り合せ造粒装置付チッパーで給餌することもできます。

(御一報次第カタログ贈呈いたします)

ミートチッパーとプレート、ナイフの専門工場
株式会社 平賀工作所 神戸市長田区水笠通3丁目8
TEL 代表神戸(078)62-1527



PCBの汚染自然界に

入ると回収不可能?

PCBとは
PCBとよばれる化学物質を通じて濃縮され人体に質が、いつの間にか地球をすすかり汚染してしまつた。とりわけ、西日本における汚染は大きく、四年前西日本一帯で発生したカネミ油症事件の原因物質はこのPCBが食用油に混入したため、この事件では、十一人の死者と千数百人の中毒患者を出してあり、これらの患者から生れる子供にも、PCBの影響が現われている。

汚染の経路

PCBは、DDTやBHCと同じグループに属する物質で、テレビ、洗たく機トランス、ホイラー、印刷インキ、塗料、ノーカーボン紙、など、我々の身近なところのあらゆるものに使われており、ことに我々が直接手に触れるノーカーボン紙には三万六千PPM(PPMは100万分の1)という有機塩素化合物であるが、PCBは二つの特徴を持っていて、一つは不燃、絶縁、水や化学物質で分解しないなどの工業用には特性の多いすぐれた物質であるが、

PCB汚染の状況

カネミ油症事件のみならず、日本では、西日本を中心に、水、魚介類、鳥類で抽出され、魚類などはPCBが抽出され、魚類などは

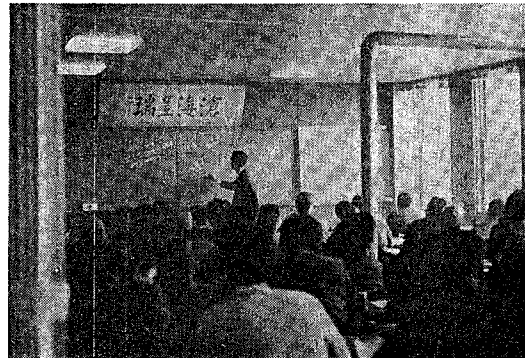
のり養殖に対する 経営合理化に指差

のり養殖経営技術研修会開く

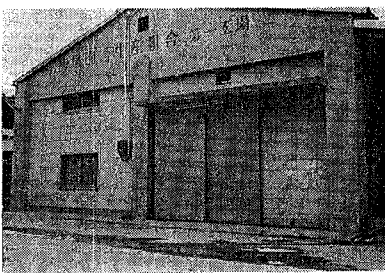
近年、のり養殖等の拡大に伴い、その経営問題が今後の課題となっているが、このたび加工部門の協業による合理的経営の先進事例を中心とした研修会が去る三月二十五日午前九時半より県立水産試験場(明石)二階会議室で開催され、県及び市町、漁協等関係者約七〇名が参加した。

漁協系統団体行事予定

- 四月 日 事 項
- 四・十八 県共済組合監事会
- 十九 県漁連 //
- 二〇 県漁連 //
- 二十一 内海漁連在庫検査会
- 二十二 基金協会監事会
- 但馬漁連監事会
- 内海漁連役員会
- 漁協合併促進会議
- 県信漁連審議委員会
- 県信漁連役員会
- 内海漁船保険組合総会
- 無船局運営委員会(香住)
- 保安協会香住支部 役員会、総会
- 県漁連役員会
- 基金協会役員会
- 内海漁連監事会
- 内海漁連正副会長協議
- 内海漁連役員会
- 県共済組合、基金協会総会
- 県漁連、信漁連総会
- 但馬漁連総会
- 内海漁連総会



のり養殖経営の協業加工事例を聞く



これは県が水産改良普及 迎へ「のり養殖経営の合理的 及事業の一環として毎年開 化と収益向上」について研 究しているもので本年は和 修会を開いたものである。 これによると同生産組合 三〇〇、四〇〇万枚を生 産している。

業者五十二名で発足し現在 固定棚と浮流しを合せて 一、二〇〇棚を養殖し、年 における責任をもっている。 特別加工部門では、婦人 部員が作業員となり、十二 時間労働二交代制で従事し ている。

組合機構も総務、養殖、 加工三部門に分け、それぞれに理事を配置し養殖、加 工部門共に八班の作業体制 を組み、各班長が各工程に おける責任をもっている。 特別加工部門では、婦人 部員が作業員となり、十二 時間労働二交代制で従事し ている。

加工機械は大体一年毎に 交換し、常に良質の製菓生 産に注意が払われている。 又、組合員は、 一人最高六〇〇〇 一日以下の摘採 制限があり、オ ーバー分は総て 組合で没収し、 加工能力とのバ ランスを保って いる。

これら大規模 な協業加工体制 の中で、製菓化 される乾のり一 唐尾のり生産 組合加工場

四月一日より県水産課 内において普及係は山側 の室へ、漁船係は旗側へ それぞれ配置変更になり ました。 以上お知らせします。

四月一日より県水産課 内において普及係は山側 の室へ、漁船係は旗側へ それぞれ配置変更になり ました。 以上お知らせします。

四月一日より県水産課 内において普及係は山側 の室へ、漁船係は旗側へ それぞれ配置変更になり ました。 以上お知らせします。

＜県水産関係人事のお知らせ＞

(異 動)

区分	新 所 属 及 び 職 名	氏 名	旧 所 属 及 び 職 名
本 庁	企業局補佐副課長(昇任)	田寺 伸彦	水産課課長補佐
	水産課長補佐兼補佐調整係長	伊藤 光一	企業局補佐課課長補佐
	洲本保健所公害課長	西村 誠吾	水産課主査
	土木部港湾課主任(昇任)	前田 増夫	水産課技師
	西宮土木事務所主事(昇任)	永尾 正明	水産課主事補
	水産課技師(振興係)	長谷川 章夫	新規採用
	水産課技師(組合係)	土岐 長谷川 篤	新規採用
水 試	(退職)	田辺 佐五	水産試験場技師(新但馬丸)
	水産試験場技術員(新但馬丸)	西原 良美	新規採用
農 林 事 務 所	社農林事務所副所長	梶川 太郎	洲本農林事務所次長
	但馬海区漁業調整委員会事務局長	中村 豊昇	豊岡農林事務所水産課主査
	豊岡農林事務所水産課主査(昇任)	藤沢 昇	但馬海区漁調委事務局主任

(昇 任)

区分	新 等 職 名	氏 名	旧 職 名
本 庁	参事兼水産課長(1等級)	森本 勝巳	水産課長
	水産副課長	守田 修二	主幹・課長補佐事務取扱
	水産副課長	福井 源治	課長補佐
	水産課長補佐兼組合係長	本間 広二	組合係長
	水産課主査	関 陽	主任(漁政係)
	水産課主任	仲野 達也	技師(普及係)
水 試	所長補佐兼総務課長 主任(新但馬丸)	門垣富士夫	総務課長
	総務課主事	魚田 繁 山形 晴美	技師 総務課主事補

船舶主機用3-1200馬力 船舶補助機用3.5-1200馬力

底曳漁業の省力化に たくましい力を

ヤンマーディーゼル

3ME15形(15馬力) 3M15形(15馬力) 2E15形(15馬力)

ヤンマーディーゼル株式会社

本社：大阪府北区東成町6-2 電話：294-7611
支店：札幌、仙台、東京、金沢、名古屋、横浜、福岡

Z-3型 待望の魚探機誕生

諸君の大漁を御約束する 小型から中型までの万能魚探

MODEL-Z-3 J.A.B.C.D

二周波魚探も出来

海上電機株式会社

本社：神戸市東灘区 電話：294-7611
支店：東京、大阪、名古屋、福岡